



二宮町議会議員

つゆき佳代通信

2019年11月30日発行 No. 013

露木佳代 つゆき かの (中里地区在住)

メルマガ、ブログ、Facebook、Twitterで情報発信中

1976年 秦野市生まれ 法政大学法学部政治学科卒業
システムエンジニアを経てルポライターへ
2004年 「ビッグイシューと陽気なホームレスの復活戦」上梓
2008年 「ママ&キッズに優しい町、二宮を目指す会」発足
子育て支援紙「Vent」発行
2014年 二宮町議会議員選挙 初当選
教育福祉常任委員、議会だより編集委員会副委員長
2016年 教育福祉常任委員、議会基本条例推進委員長
2018年 二宮町議会議員選挙 当選
教育福祉常任委員、議会基本条例推進委員
議会だより編集委員会委員長

HP <https://tsuyuki-kayo.jimdo.com/>

Email Tsuyuki_kayo@yahoo.co.jp

メルマガ Email、SNS、☎で連絡を

@kayo_1976

facebook.com/kayo.kushida



本庁舎は必要です。それに加えて空き家や公共施設を活用した小学校区ごとの役場窓口を設け、本庁舎とオンラインで繋がれば、相談や手続きが地域で可能になります。今

② 既成概念にとらわれるな。未来の役場はもっと便利に！

学校をリノベーションして活用すれば新たな人の流れが生まれます。改修費用も新築より安く済むでしょう。学校は広さがあるので集会施設や保育園を移設できる可能性も！商店やこれから販売を始めたい人にトライアルスペースとして教室を貸出すればコミュニティの場として町や地域の活性化にもつながります。

① 耐震済&エアコン完備の学校が空く。新築する必要なし！

庁舎建設に反対する理由



20億円で新築する必要なし学校・公共施設を含め、町全体のビジョンを！

役場・正泉寺・小児病院跡地の活用は決まっています。使わなくなる学校も町民センターと武道館が移動する方針が出ているだけ。何をどうするか、町全体の未来像がないために、壊すことができない古い建物が町中

③ 役場、学校、公共施設、跡地を総合的に考えないとダメ

後ますます高齢化が進み、市民が庁舎に行くのではなく、行政が地域に向いて町民サービスを提供するスタイルの先駆的自治体になるチャンスが目の前にあります。総務省は「日本が目指すべき未来社会の姿」を提唱しています。行政インフラが変わる中で既成概念にとらわれず、未来を見据えたサービス向上の新しい行政の在り方を進めることで、補助金等も期待できると考えます。

④ 町民の安全をまず担保すべし！
未耐震の集会施設しかない地区が複数あります。町と地区との話し合いはようやく始まったところです。まずは早急に町民の安全対策を！
庁舎の安全確保も重要で急務ですが、町が決めた建設地はハザードマップの浸水区域です。

⑤ 事業費が高すぎる。町民サービスの低下を懸念。

人口減、税収減が進む中で大きな借金を負うことは町民サービスの低下を招きます。根拠となる数字は同時配布の「大切な暮らしのためにまちづくりを考える会」のニュースをお読みください。



露木人語

横浜市でパートナーシップ制度を導入する際の市議会での議員発言が「差別や偏見からくるもの」であったと「GB」を支援する山下敏雅弁護士が指摘。神奈川県が報じている。権力を持つ議員はその責任として誰よりも人権や権利を理解し、重んじなければならぬ。

二宮町には議会の傍聴規則があり、第6条に「児童及び乳幼児は傍聴席に入ることができない。ただし議長の許可を得た場合は、この限りでない」とある。許可制は本人のみならず保護者の知る権利をも侵害しているのではないだろうか。第7条には、騒がない、飲食しない、立ち歩かないなどの記載があるので、大人与様に子どもにも適用すれば問題はない。誰もが等しく議場に入る権利を持ち、決まりが守れなければ大人も子どもも退場せざるを得ないというだけのこと。

議会運営委員会に第6条の廃止を提案したが、現状では賛成しかねるという意見があつて実現していない。実際の運用では児童・乳幼児が入っても「入室を許可します」と議事を止めることはないが、当り前の権利を保障するため、規則の変更を引き続き求めたい。 ※山下敏雅弁護士を招き勉強会をします。詳細は裏面に。

驚

ふるさと納税、あまりにも無策ではなかったか
ふるさと納税について一般質問したのは3年前。茨城県の境町で新町長が誕生し、就任前の約6万5千円の納税額から3年で14億円にした例を引き合いに、地元の名産品に付加価値を高める工夫すべきではと訴えた。当時、他自治体から二宮町へのふるさと納税額は約400万円。逆に町民が他自治体に納税したために町が控除せざるを得なかった額（本来は町に入るはずのお金）は約1100万円（平成27年度）だったが、3年後の平成30年度は納税額が約1700万円。控除額はなんと約9000万円に上っていた。庁舎建設で町財政が不安視される中、年間返済額とさほど変わらないお金が町から出ていく現実がある。町長は当時から制度自体を批判し、税収が大幅に上がった自治体を「毒まんじゅうを食べてしまった」と答弁している。極端に町と逸脱した返礼品で良いとは思わない。しかしあまりにも発想力がない町のほうが、毒饅頭を食べてしまった自治体より悲惨なのではないだろうか。

小・中学校の再配置

今、私たちが問われているのは親として、町民として子どもたちのためにどうしたいかということ

教育委員会は、一色小学校と二宮中学校を改修し、10年後に小中一貫校（一体型）を2校とする案で意見交換会を開催。さまざまな声を反映した新しい案も加え、今後も意見交換会を開催する予定だそうです。

地域の方や保護者から、今までと学校配置が変わることに対する不安が出るのは当然ですが、今、私たちが本当に問われているのは「子どもたちにどんな風に成長してほしいのか、そのための理想的な学校のあり方や学校施設はどうあるべきか、教育方針はどうあってほしいのか」ではないでしょうか。

私は、教育のますますの充実により、町の魅力が向上し、若い人たちの移住・定住に繋がると考えています。

町の未来は、私たちの手の中にあります！今後の町の意見交換会に、ぜひ参加しましょう。

学

性

見た目は女性なのに心は男性。逆の人もいます。性が日ごとに変わる人もいます。自分でわからない人もいます。男性だけど性的指向が男性の人がいます。女性の場合もあります。どちらも、という人もいれば、どちらも好きにならない人もいます。性的少数者といわれる人たちは、どの国でも、どんな民族でも、ずっとずっと前から、必ず一定の割合でいます。

お子さんのことで気になることがある方、幼児・児童・生徒と接するお仕事の方、基本的なことを知りたい方、当事者のお話を聞きたい方、行政関係の方、ぜひお気軽にいらしてください。

仮タイトル『みんな、そのまま！』

日時：1月11日(土)14時～16時

場所：小田原市民交流センターUMECO会議室

主催：露木佳代、加藤久美（中井町議）、綱島麻実（南足柄市議）

※託児はありませんが、お子さん連れも歓迎！
※駅から徒歩3分、有料回あり

講師

LGBT支援法律家ネットワークの

山下敏雅弁護士と当事者の方をお招きします

県内のパートナーシップ制度導入自治体（決定含む）は、小田原市、鎌倉市、相模原市、逗子市、葉山町、横須賀市、横浜市。二宮町は3月の私の一般質問の際、導入にむけて検討すると答弁。申請書類、町発行書類等で性別記入（記載）が本当に必要か等、可能な範囲で配慮できるよう確認作業中。

2020年 湘南ケーブルテレビ『新春快談 協同する県西女性議員たち』

湘南ケーブル(SCN 2 ch)で『新春快談 協同する県西女性議員たち』という番組が放送されます。日頃から情報交換する私たち4名が町政について語り合います。日常のトークよりだいぶおとなしいですが、ご覧ください。
●2020年1月6日から31日まで（平日17時30分～18時）



私、鈴木たまよ(大磯町)、加藤久美(中井町)、平野由里子(松田町)

番組では、補助金の話や町民のみなさんの声をどう捉えてきたか、広域連携の重要さなどについて話しました。二宮は中井町と隣接しているのに行政区が異なるため、広域事業はありません。同じく隣接している大磯町とは行政区は同じですが、消防指令と病後児保育程度。

今後はどの自治体も独自で新しい事業を始めることは厳しい状況にあります。みなさんの税金を有効に使うためにも、議員同士が情報共有をし、行政区を超えた広域事業が実現できないか等も含め、各自治体に働きかけていく必要があると考えています。

今年も手話でいらっしやいませー！
子ども朝市大盛況

子どもたちの手作り品を売ったり、店の手伝いをして接客や商売を学ぶ『子ども朝市』を9月に開催。今年も神奈川県聴覚障害者協会、手話サークル「カナリヤの会」さん、デフキッズさんの尽力で耳に障がいのある子どもたちも参加となりました。健聴の子らと、ろうの子らは交流会を経て友達に。最初は緊張の表情でしたがゲームで大笑い！身振り手振りで気持ちよく伝え合う場面も。商

品を渡してお礼の手話をしていたらろうの子は、お客さんが手話を見ずに去ってしまうことに悩み商品を手渡す前に手話するように変更。短時間で、どうしたら伝わるかを考え実践するなど、健聴・ろうの子、両者にとって学びの日となりました。毎年開催させてもらいう朝市は11月に200回目。10年の歴史に感謝。

